

釣れ釣れなるままに

1996年思い出の釣行記 PART. 3

夢よ再び...
さあ甘くはなれい



鹿島釣狂

釣遊会第3回大会

☆開催日	平成8年6月16日
☆開催場所	エリモ漁港～襟裳岬港
☆入釣場所	東歌別
☆潮	満潮 02:01
	干潮 09:31
☆釣果	アブラコ 420 mm 1
	カジカ 350 mm 2
	ハゴトコ 2
	重量 2630 g
☆成績	合計点数 1033 点
	成績 7 位

夢よ再び

今回の大会はエリモ漁港～エリモ岬港である。1995年度第2回大会の5月28日に同じ区間で東歌別に入り1426点を獲得している。『夢よ再び』の心境である。「場所は同じでも時期、その時の潮回り、天候、水温など条件は決して同じではない。そして何より他の大会などで、その場所が攻められた後なら、魚はまったくと言って良いほどいなくなる。」と先輩たちには常々忠告されている。

しかし、思いは前回のあの釣りである。「バスから降り、坂を下っていった所に舟上げ場があるからその右側の溝に暗いうちからドンドンとイカゴロや撒き餌を打ちなさい」「潮が引いていくとともに前進し、一番前に出ることができたら遠投をかけなさい。暗いうちに撒いた撒き餌が潮とともにおまへの投げている所に流れていくから」佐々木秀美氏からどれを聞いても納得のいくさらに細かいご指導をいただき、それを忠実に（少なくとも本人はそう思っている）実行したのである。私にとっては初めての大会であった。そして1年後の今でも脳裏にまざまざと焼き付いている。

今日の潮回りは前回とはば同じである。やっぱり『夢よ再び』の心境である。

身が疎む思いも

東歌別に着きバスから降りる。すると、我が会きっての大物釣師である吉井氏も一緒に降りた。ドキッとする。吉井氏と一緒に竿を並べると、こちらは身が疎んでしまいまともな釣りはできなくなるぞと思う。エリモの第2に案内されて一緒にゴジラ岩に乗った時のことである。吉井氏が遠投をかける。私が渾身の力を込めて振った竿から出ていく仕掛けの遙か遠くにズボッと着水する。あまりにも遠くなので着水音がズボッなのかボシャンなのかは定かでない。そしてあれよあれよと思う間に次から次ぎへと大きなアブラコを何本も抜いていく。

吉井氏は私の心を察知してくれたのか左のほうに進んでいく。ホッと胸を撫で下ろす。しかし、吉井氏の見事な竿さばきを見れないのがチト残念な気もする。まあ、これでとにかく自分の釣りに専念することができる。

そう甘くはない

満潮のため、高い防潮堤の上から例のごとくイカゴロ・ネットにカツオをつけてドボン、ドボンと次ぎから次ぎへと打つ。しかしアタリは無い。前回はここでも次ぎから次ぎへとカジカが上がったはずだが？ 3時ごろようやくアタリがあり、ハゴトコが釣れる。続けて28cm程のカジカ。ピンコアカハラも来る。しかし、ピンコばかりで大物が来ない。「条件はいつも同じではないぞ」先輩たちの忠告が身にしみる。5時ごろまでにハゴトコを山にするほど釣ったため、エサがだんだんと心許無くなる。カツオは残り30切れぐらいだろうか。エサにするためにアカハラとハゴトコを切る。

最後の一投

7時ごろやっと潮が引いてきたため（これも前回よりはかなり遅い）出岬の先端に出る。しかし、釣れてくるのはやはりハゴトコばかり。エリモでは何かと噂の高い8時半、やっと35cm程のカジカが近投で釣れる。しかし、後が続かない。エサが底をついてきた。前回良かった左側の根はあきらめ、ハゴトコをエサにさらに右側の昆布根に向かって遠投をかける。坂部氏が来て「どうだい」と尋ねてくる。彼もあまり芳しくないようだ。10時が近づいてきた。残しておいた大ぶりのカツオをエサに最後の願いをかけた最高の遠投が決まる。今までは届かなかった正面奥の昆布根だ。それを残してすっかり片付けが終わった。未練がましく残しておいた最後の一投に竿尻が持ち上がるほどのアタリだ。その竿だけを見ていたのでタイミング良く合わせることができた。何度か途中の昆布根に潜られたが、無事取り込むことができた40cmのズックバックに合わせると尾鰭が少しはみ出ている。

3回連続千点越え

審査の結果、私は1033点で7位入賞である。またまた千点の大台にのせ、これで三回連続の千点越えだ。今年は何とか年間でも上位にくいこめそうな勢いである。最後まであきらめずに打ち続けたことがこの成果に繋がったものと思われる。

優勝者は吉井氏で1438点の高得点である。これで良く解った。吉井氏は私の竦んだ身を察知してくれたからではなく、初めから釣り場を



決めていたに違いない。あれこれと迷う私にはおかまいなしにズンズンと先へ進んでいったのも頷ける。

準優勝は千成氏で1234点、3位は島氏で1092点であった。身長賞はやはり吉井氏のカジカ47.1cmである。今回も皆さん成績がよく10位までが千点越えであった。

次回は私の大物釣行記を紹介しよう。どうぞ期待！